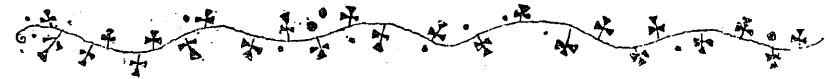


内 氣 な 子 供

谷 口 和 子



問題の子供があつて、その問題の原因はこれらしいとわかつてみても、その解決は名医の外科手術の様に手際よくかたづけかない。又これらしいと思う原因の解釈が、単に問題が解決したから適当であつたとか、解決しないから不適当であるときめられるものではない。むしろ問題は一つでかたづけかない複雑な原因から起つていることもあるであらうし、それは親からうけた素質であることもある。現場の教師は病気に名前をつけるそのことよりも、頭のいたいことを熱のあることを健康な状態にするために毎日手をかえ品をかえて苦心している。これはその過程の一つの記録である。

満四才の男子、四月に入園してまる一ヶ月幼稚園の中にはいると口をきかなくなり、たゞ年長組の世話すきの女の子に手をひかれて頭が大きく下半身の短いかにも幼児くさい姿で、あちこちあるくか、紙芝居やお話の時にまるい膝をちよんと二つそろえて眼をまると開き、さりとて別に感動した風もなく聞いているという状態ですこした。

●絵をか、せ線とするとかきたくないという

様に手をかたく握りしめ、かくことを強いると大粒の涙を流して大声で泣く。

●粘土細工はざわつてみようとしめない。

●身体検査の時は体をかたくして今にも泣きそうになる。

●階だんの登りおりを泣いていやがる。

●お弁当のはじまる頃になつても(五月)まだこれらの状態は変らずお弁当を持つてきても食事をしないで帰る日がつづいた。

調査による家庭環境は 祖母、父、母、中学一年の兄と小学校五年の兄に本人、六人家族父母共に大学卒、父は大学教授、父母共に話し言葉等丁寧で静かである。

送り迎えをする母の話によると、ひらかなは全部よみかき出来、友達の名前を胸のハシカチから読み取つて帰る家で報告するといふ。近所の子供には二三人話をして一緒に遊ぶ友達もあるが、知らない人に対しては極端なはにかみやであるという。この様にだまつて幼稚園ですこしているが、朝出る時は大変うれしそうに幼稚園に出かけて来るのだそうであるが、いつまでたつても受持ちの先生等眼中になく、馴じもうとしないこの子供に対し

て子供のホームグランドで仲良しになろうということは一番最初に考えたことであつた。しかし他の子供達は環境をそれぞれが発達の過程としてそれぞれの必要として、家庭それから幼稚園と同心円にひろげて来ている。この子供だけ家庭と幼稚園の間に先生の方で直線のかけはしをつくらなくても何とかならなだらうか。その様なことを考え、幸い送りむかえは母がしているのでその間の連絡を密にし、必要のあるたびに家庭での状態を知らせてもらい、幼稚園では行わない外的表現を知ることにした。以下教師と母と共同の記録の中から子供の變化をひろつてみる。

【5月23日】絵具ではじめて絵をかく。誰も教室になくなつてから教師が腕の上膊をつかまえているからという約束で。(他の子供は二回目)

【5月27日】登りおりをいやがつて泣いていた石段を、四段だけの所で始めは手をつないで終り頃は一人で登つたりおりたりして笑い声を立てながら遊ぶ。隣の子供の絵をまねてクレパスでかく。食事は口まで運んでたべさせれば一緒に食事をする様になる。

※あれこれと教師の方から友好的な關係をつ

くろうとして毎日だまつている子供に何かと話しかけていたのが此の頃やつと一方だけであるが意思が疎通しはじめて来る。

【5月29日】園庭のためき穴を友達と一回だけくぐつた。

『家へ帰ると「ぶくぶく」と「がらがら」を必ず三回づつする。時計を一人で切りとり針をつけてもらつて遊ぶ。どろあそびをしながら汽車の歌をうたう』

※うがいのぶくぶく三回がらがら三回と汽車の歌は幼稚園でならつたことである。幼稚園ではどちらもただみていただけ。

【5月30日(金)】昼食の時今日は箸を自分で持たせ教師が手を持ちそえて食べることにしよう、と約束して始める。途中で、なるとの煮たのに自分から力をいれてつきさしたので、教師が手をはなすと自然に自分で口に入れ、この調子と思つた途端に、さもなくそうな顔をしてにらみ、あとは泣いて食事をせず。午後また絵をかかない。『エプロンのひもがとけたから結んで』と始めて小さい声ではあるが意味をなす話をした。

『一人で食事をしない子は大きい犬になめさせるときびしく母が叱る。月曜日は自分で食

事をし、お絵かきもすると手について約束をする』

【6月2日(月)】二人づつ組んで作つたトンネルを汽車になつてくぐつて遊ぶ。教師にさわれないでしたのははじめてである。身体検査を泣かずにうける。

『カレングーが好きで二日間の休みをカレングーで遊び教も千まで教える。トランプを紙芝居の代りにして七匹の子山羊の紙芝居をする。歌ははじめ小さい声で歌つてみて、すっかりおぼえると大きい声で歌う』

【6月3日(火)】食事をしない。絵もかかない「いや」とはつきり意志表示をする。下駄箱から靴を自分で出そうとしない。

『かえり道、友達が高い所へ登るのをみていて自分もまねる。』この電車は○番ねと友達に話をする。……幼稚園では口もきかないでいる友達であるが……『「おちゃんが僕に又あしたも遊ぼうねといつた」と母に報告した』※教師に対してあまえてみる態度が世話をやかせた形で出て来た様である。母は家ではこんなでない、絵をかかないことその他を苦にするが今しばらく書きたくなければそのままにしておくことにする。

【6月4日(水)】友達のまねをして話の最中に外をのぞいてみたりチヨコチヨコ脂をかわつてみたりする。

【1人で家で絵をかいている時に母がほめて幼稚園でかいたら、きつと皆さんがびつくりするでしょうねという】と「あしたカレンダーを日月火もかいて、そしておともだちにも僕書いてあげる」という】

【6月5日(木)】石神井の豊園に遠足、他の子供はほとんど附添いがあったが、この子供は一人で泣かずによく歩いたが食事をしない。

【6月9日(月)】「今までいやがっていた髪を洗うこと耳を掃除することをいやがらずにする様になつた」

※爪と耳と髪をきれいにする様におしえ毎週幼稚園で検査をしている。

【6月10日(火)】友達の名前を言つて呼んで来てもらうことを頼むとその子のそばに行き、小さい声で「ちよつと」といつて連れてくる。昼食はまだ食べさせないとだめだったが終ると、舌を出してまだ食事のすまない子供にひょうきんな顔をしてみせて笑わせる。

【ハンカチ落しの時 落されたけれどしなかつたと報告し、前奏の時はうたわらないのよ】

と先生のまねをする】

※他の子供はせいぜい二人位しか友達の名前をおぼえていないのに、この子供は同年の男子の名前を十数人知つている様である。

【6月11日(水)】じやんけんをして(紙しか出さない)鬼ごっこをする。食事はまだ一人ではない。

【母から「お弁当お友達と一緒に食べるのが恥かしいの」と尋ねられ「恥かしいの」と返事をした。】食べさせていたぐくのはもつと

恥しいのよ】に対しては無言でさして恥かしくなさそう。雷様について質問した機会に、

「お空でみておられるから、幼稚園にいつていつまでも一人でお絵かきしないで居ると、今度雷がなつた時おへそをとられてしまうかもしれない」

「明日は先生がごらんにならんうちに一人でいただいてしまふ」という約束が出来る】

【6月16日(月)】11日の約束はまだ今日も果されない。家へ帰ると絵をか、なかつたこと。お弁当を一人で食べなかつたことを報告するという。

【6月20日(金)】参観人のある度に問題になるこの子供を、今少しきつく叱つてみることに

する。朝から今日は「お絵かきしないならおうちへ帰つてもらふ」と何度もうと其の度に声はあまり立てずに一粒の涙を流していた。他の子供達が全部不透水彩でかきあげた頃とうとう「一緒にもつて」と画く意志を示し、尚よく「一人で画かなくてはいけない」といつてから腕をおさえてか、す。二枚一息に自動車と汽車の絵を黒と緑の線でかく。お弁当も同様にこの腕をさ、えてみるとあとは自分で器用に食べた。

※これは別のやはり沈黙の女の子が前にお迎えの人がなかなか来ないので、夕方やつと来て、遠くから名前を呼ばれた時に、うれしくなつて「ハイ」と大きな返事をしてからその子が話をする様になつたことがある。それでこの男の子の場合の沈黙の状態も何かの圧迫感からなら思う存分いやなとき、叱られた時幼稚園で大きな声で泣く事もあるいは良い結果を生みはしないかと考えいけないことはきつく叱ることにした。

【6月23日(月)】朝から一人で、自由画帖に電車と人の絵をかく。友達と一緒に粘土細工をし、花、トンネルをつくる。食事も一人でする。

※休みの後はいつも又元に戻つたなと思われ
る様にこの子供はかたくなになるが、先週絵
をかき様になつたことが、月曜日の今日は更
に発展した。あとに残る問題は外遊びや、音
楽リズムの仲間に入つてしないことである。

【6月24日(火)】「お絵かきも粘土も上手、何
でも上手に出来るでしょう」とほめてはジャ
ングルに登らせ様とする。鉄棒の前まで登り
そうに行くが止める。すべり台やブランコに
のることをすゝめると「こわいからいや」と
そばにもゆかない。外あそびは石段の登りお
りを楽しんでゐる。

【6月25日(水)】「ジャングルに登るからおさ
えてね」というので背中の前かけの紐をそつ
とさわる程度に抑えていると一段だけ登つて
はおりて遊ぶ。帰る頃お迎えのお母様がふえ
てくると又無表情になつて何もしくなつた。
【6月26日(木)】先生方の後からついていき「
ワツ」と驚かす事を喜んでしていた。自分で
早く食事を終り、まだ終らない子に面白い顔
をして笑わせ、入口を出たり入つたりする。
※他の子供の場合なら特記することでもない
が、この子の場合始めて表れた行動である。
【6月27日(金)】「もうずつとせんからのばれ

る様になつたの」と言い乍ら久しぶりに見え
た園長先生にジャングルに一段登つてみせる
【7月1日(月)】音楽のリズムの時は他のこと
は何もしないが皆と一緒に歩く時は手を高く
といえばその様に、元氣よくといえば又それ
らしく歩く様になつた。先頭にすると喜んで
元氣にあるく。

【7月7日(日)】おたん生会で数人ずつならん
で遊戯をするとき、ただ立つていたが、終つ
たあとは一仕事した様に満足したニコニコ顔
をしている。

以上が一学期間の記録であるが、この中から
と又それに加えて日常感じていることを此の
子の性質の特徴としてあげると
●ひとりではつておかれても平気である。
●先頭になつたり、一番早く出来た等は大好
きらしい。

●ひどい心配性、苦勞性らしい。
●あがりやすくすぐかたくなる。
●人のすることをよくみている。穴のあいて
いる所、友達をした悪いこと等は特に。
●かたすみで他人のやることを眺めている。
●何を望み何を感じ何が好きで何が嫌いかわ
からない。

●強情をはつて、さらつと止められない。短
かくいえば内気でおとなしくはにかみやであ
る。(終りの二項の強情をはつてさらつとや
められないというのは少し問題を残す点であ
るが)そしてこのことはどうも素質的なも
のの様である。父親の幼い時に面倒をみた
という女の人が、此の子の行動を「旦那様の小
さい時そつくりだ」ということであるし、改
めなければならぬ環境があるわけでもなさ
そうである。

家へ帰つてからの幼稚園の報告等も正確で
あるし、文字等もよくおぼえており、知能的
にもすぐれている様子であり、内気であると
いう特性は矯正する必要はないように思う。
自分で本当に打込んで進むことの出来る軌道
を見出してやること、これに乗せてやること
が教師としてのこの性質に対する指導であろ
う。然し社会に対する不適応、新しいものに
対するしりごみ、これは此の先長い学校とい
ういろいろの氣質の者と机をならべる生活に
このまゝでは次々問題を生むことであろう。
その解決のためにも幼稚園の集団生活におい
てのこの子供の軌道を、みつげ出してやりた
いと思つている。